

4 5歳児と1年生（接続期）のカリキュラムと事例

ここでは、5歳児と1年生（接続期）の連携活動のカリキュラムと事例を紹介します。

- **連携活動（育てる）**
- **連携活動（つくる）**

□ 5歳児と1年生の連携活動をされる際に参考にしてください。

4 5歳児と1年生（接続期）

連携活動（育てる）

年間を通じて・・・
アサカオ ざつまいも
保幼小中で一つの産物を作ってブランド化、周辺地域の特産物を育ててみる、農協、農業者との協力

春

夏

秋

冬

子どもの姿	環境	保育者・教員の関わり	育ち・学び
育てたいものを相談する 種や苗が売っている所を調べ、買いに行く 種まきや苗植えをする	<ul style="list-style-type: none"> 栽培するために必要な環境や道具を準備する 畑、プランター、鍬、スコップ、バケツ、じょうろ 気付いたこと発見したことを記録したり、調べたり、比べたりできる教材や道具を準備する 観察カード、紙、ペン、ホワイトボード 図鑑、絵本 量り、メジャー、定規 絵やコメント、写真を掲示する 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者・教員が連携し合って進めていき、5歳児と1年生がお互いの思いを出し合いながら、協力し合えるように働きかけていく。 小学生が、5歳児をお世話してあげるのでなく、一緒に活動できるようにしていく。 一緒に育てる気持ちを高めていけるように、手紙等を活用し、5歳児と1年生の気持ちを近づけない働きかけをする。 	<p>協同性</p>
世話をする（水やり、草抜き等） 観察する 成長を記録する		<ul style="list-style-type: none"> 子どもが気付いたことや、発見したことをいつでも記録できるようにし、子ども達の見えるところに掲示する。記録を見ることで、学びを共有したり、活動を振り返ることができるようにする。 友達の発見や学び、気付いたことを伝え合う機会を持つ。 	<p>思考力</p>
収穫をする			<p>社会生活との関わり</p>
重さを量る 大きさを測る 数える 比べる			<p>自然との関わり 生命尊重</p>
活用する ・色水を作る ・リースを作る 食べる ・調理の方法を考える	<ul style="list-style-type: none"> 色水遊びや製作遊びに必要な道具や素材を準備する すりこぎ、すり鉢、透明の容器、ペットボトル ポンド、木の実、リボン、モール等 本 調理に必要な調理器具等を準備する 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が量り、5歳児と1年生の気持ちを近づけない働きかけをする。 子どもが気付いたことや、発見したことをいつでも記録できるようにし、子ども達の見えるところに掲示する。記録を見ることで、学びを共有したり、活動を振り返ることができるようにする。 友達の発見や学び、気付いたことを伝え合う機会を持つ。 収穫した物を使ってどんなことがしたいか（製作、食べる）子ども達と話し合って考えていく。 	<p>数量や図形、 標識や文字などへの 関心・感覚</p> <p>言葉による伝え合い</p> <p>豊かな感性と表現</p>

4 5歳児と1年生（接続期）

5歳児・1年生 10月 「なんの形？」

遊び(活動)の展開

春と一緒にさつまいもの苗を植え、今回は一緒に収穫をするために小学校から、ベアで手をつなぎ、さつまいも農園まで歩いて行った。

つるを切らずに置いておいたことで、つるをたぐりながらさつまいもを発見した。色々な形のさつまいもを何かに見立てたり、土深く埋まっているさつまいもを見つけ、友達と力を合わせ、声をかけ合いながら掘る姿が見られた。

カマキリ、バツタ、コオロギ、ハサミムシなども見つけ、一緒に虫と遊び楽しむ姿も見られた。

カマキリの赤
ちやんが大きく
なったんかも

白色。
緑じゃないね。

このおいは
なんの形？

なんか石みたい
形のいも



つるがいっぱい。
どこまでのびとる？
おいはどこ？

ほら、白いカマキリ
見つけた！

わあ、まだある。
大きいの。

一緒に掘ろ
手伝うで。



保育者・教員の関わり (ねらい、意図、環境)

・収穫した時や虫を見つけた時の様々な発見や気づきを大切にし、周りの子にも気づきが共有できるように言葉かけをする。

・「このおいはなんの形に見える」と声をかけることで、形の大きさやどんな形をしているのかに興味を持ち、考えるように働きかける。

・どこにさつまいもがあるのかを楽しんだり、考えたりしながら掘れるよう、つるを切らずに置いておく。

考察(育ち・学び)

- ・さつまいもの成長を感じたり、虫などの小動物に興味を持ったりする姿から、【自然との関わり・生命尊重】につながっている。
- ・「なんか石みたいな形のいも」「大きいの」という子ども言葉から、図形に興味や関心を持つ【数量や図形などへの関心・感覚】につながっている。

今後の展開

- ・収穫して食べるだけでなく、何個掘ったか、どれが一番大きいかなどを比べることで、数えたり比較したり測ったりすることにつながる。
- ・掘った芋の大きさや重さ比べ、数比べを通して、数量や図形に興味や関心を深めていく。
- ・一人ではできなかったり、運べなかったりする状況をあえて作ることで、友達と協力する機会を持つ。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

4 5歳児と1年生(接続期)

5歳児と1年生 10月 「書いてみよう！」

遊び(活動)の展開

さつまいもからでんぶんを取り出だして
 気付いたことを、気付きシートに書いていく。
 なかなか書き出せなかったが、保育者の
 言葉がけにより、他のグループと比べることで、
 気付いた事を1年生が文字で書き出した。
 園児は見ているだけだったが、保育者の
 関わりにより、絵や文字で気付いたことを
 表現しはじめた。

※AB:1年生 CD:5歳児

A:ほんとか
一番多い

B:しほりかた、
2回にわけてや

それ書くといいね

よそのチームより
でんぶんが多い
で見てきな

なんですか？

C:ちよっと白
かった

D:おうど色やった



字でも絵でもいいよ

ちよっと白かったんや！
それ書いとくね
続きに書いてね

保育者の関わり (ねらい、意図、環境)

- ・他のグループよりも量が多いことを知らせ、考えるためのヒントを与える。
- ・気付いたことに共感し自信につなげる。
- ・なかなか書き出せない子どもに、字でも絵でもよいことを伝え、5歳児の発言を保育者が文字にして書いてみることで、安心して書き出すきっかけを作る。

考察(育ち・学び)

- ・でんぶんに興味を持ち、観察したり色や量、形の違いや変化に気付き、伝え合っていることから【言葉による伝え合い】【思考力】の芽生えが育っている。
- ・自分が気付いたことを文字や絵で表現していることから、【豊かな感性と表現】【数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚】が育っている。

今後の展開

- ・でんぶんを使って調理したり遊びを考えたりする。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

4 5歳児と1年生（接続期）

5歳児 1年生 9月 「どちらがおおいかくらべよう」

活動の様子

4月にペアでアサガオの種まきをし、今回の活動は、「たねまき」たねとり」に続く3回目の交流であった。交流がない間は、成長する様子を手紙を送り伝え合ったり、アサガオの様子を見に行ったり、つながりを続けていた。

アサガオの種を見たときは、

「すごい。」

「いっぱいや。」

と目を輝かせながら触っていた。

この種の量・数を比べる活動であった。

1年生と5歳児がペアになり、2つのペア同士でどちらが多いか、比べる方法について試行錯誤していた。

事例のグループでは、種を紙の上にテープで貼って並べることや、数字を書いたところに種を置いていくこと等、子ども同士で考えながら工夫する姿が見られた。

※AB:1年生 C:5歳児



A:かぞえる?
B:わからへんなあ
A:ここにおいたらいいやん
(筆箱の上に並べ出す)
B:テープではつっていった
らいいやん

A:1とか2とかかい
ていったらいいやんちやう
A:わたしがすうじか
いていくからおいていって

保育者・教員の関わり (ねらい、意図、環境)

- ・比べる方法には、数える、量を測る等様々な方法があるが、その方法については、特に決めずどうしたらよいか子ども同士で考えるようにした。
- ・画用紙、セロハンテープ、定規、紙テープ、透明のカップ等普段使っている様々な道具から必要なものを選んで使用するように置いた。

考察(育ち・学び)

- ・比べるために数えることを選び、書かれた数字に合わせて種を置くという方法に気付いたことから、【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】が高まっている。
- ・テープで貼ることや数字の上に置いていく等の気付きや工夫する姿は、【思考力】の芽生えと言える。
- ・1年生と5歳児が役割を分担して数えたり、気付きや工夫を伝え合いながら活動する姿から、【言葉による伝え合い】が育っている。

今後の展開

この種をどうするかという点での展開としては、来年の連携活動のために5歳児に種を譲る等、これからの保育や連携活動につなげたい。また、比べるという点では、量を比べる方法や重さで比べる方法等、測るための道具を置き、様々な方法で比べることを経験してほしい。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数直や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

4 5歳児と1年生（接続期）

5歳児 7月 「大きくなってかな？」

状況説明

アサガオの種まきを一緒にしてから、園の子ども達が当番で交代して、1週間ごとに小学校にアサガオの生長の様子を見に行っていた。

1年生とは、直接会うことが難しいため、手紙のやり取りをするようになり、学校にポストを置かせてもらった。

手紙をもらったり、書いたり行き来することで、互いのアサガオに対する思いはつながっていた。

1年生からのお返事が入ってるね。

見せて！
見せて！

いっぱい
はいっとる！



保育者の関わり (ねらい、意図、環境)

・1年生との交流やアサガオの生長を楽しみに思う気持ちを育てていけるよう、手紙のやり取りをする。ポストも用意する。

・全員で手紙を投函するのではなく、その日の当番の子が行くことで、みんなの役に立った喜びを感じられるようにする。

考察(育ち・学び)

- ・1年生の手紙から、憧れの気持ちや小学校への親しみ、就学を楽しみにする気持ちが芽生えてきている。
- ・1年生が5歳児の質問に答えるため、調べたり、考えて返事を書いたりする姿から、自分のための『調べる』だけでなく、誰かのために『学ぶ』という力が育まれている。
- ・5歳児は、1年生に伝えたいという思いから、文字に興味を持ち、手紙を書きたいという気持ちにつながっている。【社会生活との関わり】【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

4 5歳児と1年生（接続期）

連携活動（つくる）

素材いろいろ・・・段ボール、空き箱、緩衝材、発砲スチロール、割り箸、つまようじ、トレイ、木、布、紙コップ、紙粘土、サツマイモのつる、自然物



子どもの姿	環境	保育者・教員の関わり	育ち・学び
何を作るのか決める	<ul style="list-style-type: none"> ・作りたい物のヒントを探せるよう、絵本や図鑑を準備する 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者・教員が作る物や素材を決めてしまうのではなく、子どもと一緒に話し合い、5歳児と1年生がお互いの思いを出し合えるようにしていく。 	
素材や道具を決める 素材を集める	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に散歩に行き材料を集める ・適切な素材の量や種類を考慮する ・素材を置く場所や置き方（種類、形、大きさ、色等でわけける）を工夫する ・考えたり、試したり、工夫できるよう、必要な素材や道具を準備する ※素材は上記に記載 ボンド、のり、セロハンテープ、ガムテープ、グルーガン、スズランテープ、マジック、ハサミ、段ボールカッターマジック、絵具等 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生が、5歳児をお世話してあげるのではなく、一緒に活動できるようにしていく。 	<div style="background-color: #f44336; color: white; padding: 5px; text-align: center;">協同性</div>
工夫する 試行錯誤する 素材の特性や性質を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたり、試したり、工夫できるよう、必要な素材や道具を準備する ※素材は上記に記載 ボンド、のり、セロハンテープ、ガムテープ、グルーガン、スズランテープ、マジック、ハサミ、段ボールカッターマジック、絵具等 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どものアイデアや工夫している姿を大切にし、その発見や工夫をまわりの子ども達にも共有していく。 	<div style="background-color: #f44336; color: white; padding: 5px; text-align: center;">思考力</div> <div style="background-color: #f44336; color: white; padding: 5px; text-align: center;">数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</div>
活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・作った物を飾るところを用意したり、作った物で遊ぶ場所や時間の保障をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・『振り返り』などを通して発表の時間を設けることで、工夫したことや考えたこと発見したこと等を伝え合う機会を持つ。 	
表現する（発表する）	<ul style="list-style-type: none"> ・『振り返り』の時間 		

4 5歳児と1年生（接続期）

5歳児と1年生 10月 「つくってあそぼう」

遊びの様子

『つくって あそぼう』の3時間目の連携活動。
5歳児2名と1年生1名が段ボールや牛乳パックで馬を作っている。「足を動かせるようにしたい、3人乗れる馬にしたい、首を動かしたい 力を合わせて」という前回の話し合った目標が画用紙に書かれ、黒板に貼ってある。その様子の写真も配られている。

乗れるようにするために胴体の段ボールには詰め物がしあり、すでに乗って遊べる状態になっていた。牛乳パックで首をつけ、馬らしくなってきたところ、足をつけようと試行錯誤していた。
牛乳パックを重ね、組み合わせることで強くなることばかり、作ろうとしたが、牛乳パックがなくなってしまう。
しつぽをつけることになり、ロールの中にススキを入れて3人で貼り始めた。
5歳児がそのロールを利用して、ひもを通してタイヤにして動くように考えた。

※A:1年生 BC:5歳児

保育者・教員の関わり (ねらい、意図、環境)

- ・前回の写真や話し合った内容を貼り出すことで目標やイメージを共有できるようにする。
- ・乗れる胴体を作ったことで、満ち足りている様子だったので、「乗れるように」というところを意識してほしいと「つぶれないようにどうしたのか」という言葉をかける。
- ・「足を動かしたい」とことを意識してほしいと言葉をかける。

考察(育ち・学び)

- ・牛乳パックを2つ組み合わせることや「あと4個や」「足が足りん。牛乳パックがない」という子ども言葉から、必要感に基づき【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】を活用している。
- ・つぶれないように牛乳パックの中に詰め物を入れたり、足をつけるために試行錯誤している様子から、物の性質や仕組みなどに気付いたり、他児の様々な考えの中で、考え直したりする【思考力】の芽生えにつながっている。また、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的に向けて考えたり、工夫したり、協力していることより【協同性】も育っている。

今後の展開

- ・バランスをよくするためにどんな工夫をすればよいか考え、素材の性質に目が向くように言葉をかける。
- ・今よりも多めの人数のグループで連携し、友達と折り合いをつけながら1つの目標に向かう活動をする中で、相手の立場に立ったり、自分の気持ちを調整して行動する力をつけていく。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

5 小学校のカリキュラムと事例

ここでは、小学校の指導案と事例を紹介します。

- 1年生 生活科
- 1年生 算数
- 3年生 道徳
- 3年生 理科
- 4年生 総合
- 5年生 体育






□小学校の教員の皆さんは、それぞれ実践される際に参考にしてください。

□保育所・幼稚園・認定こども園の保育者の皆さん、中学校の教員の皆さんは、小学校教育への理解を深めるために活用してください。

5 小学校 1年生 生活科

8 本時の目標
秋の自然物や身の回りにあるものを使って、遊びをつくる。

9 本時の展開 (2/10)

	児童の活動	教師の働きかけ
導入 5分	<p>①</p> <p>今日は、つくってみたいとかがえたものをつくります。どんな遊びをつくりたいですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんぐりごまをつくりたい。 ・ どんぐりのマラカスをつくりたい。 ・ オナモミのさかなつりです。 ・ オナモミでまとあてをつくりたい。 ・ まつぼっくりと枝でゴルフをつくりたい。 ・ まつぼっくりのけん玉です。  <p>あきのものをつかって、たのしいあそびをつくらう。</p>	 <p>つくりたいという意欲を高めるために前時の学習を振り返る。 材料、道具の使い方、活動の時間を説明する。 どんなふうにつくっていくのかグループで相談する時間を設け、自分たちで見通しをもって取り組めるようにする。</p>
展開 30分	<p>②</p> <p>これから遊びをつくりたい。困ったときは、同じ遊びの友達と相談しながらつくりたい。</p> <p>○よりよいものにしたいという思いの例</p> <p>どんぐりごま</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もっとまわるようにしたいな。 ・ どれがまわるかな。 <p>マラカス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なにをいれると、いいおとがなるかな。 <p>的あて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オナモミがもっとくつつくようにしたいな。 <p>○材料や道具の特性からの気付き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きなどんぐりのほうがまわりやすいよ。 ・ どんぐりによって音がちがうな。 ・ どんぐりでも模様が違う。 <p>○友達の意見交流からの気付き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のすごいところをまねたら、上手にできた。 ・ 友達と一緒に考えたらいい考えが浮かんだ。 ・ 「すごいね」と言ってもらって嬉しかったよ。  <p>道具の後片付けをする。</p>	 <p>安全に留意する。特に、穴をあけるものを使うときは、指定された場所で安全に使うように指導する。</p> <p>難しかったり、うまくいかなかったりしたときに、どうしたらいいかと何度も挑戦しようとする子どもを大いに賞賛し価値付けるようにしていく。</p> <p>より楽しいものになるように考えさせる。</p> <p>一緒に活動している友達同士で相談しながらついたり、試したりするように声をかける。</p>
まとめ 10分	<p>③</p> <p>つくったものをみんなに紹介しましょう。難しかったところや難しかったけど上手にできたことを話しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わたし(ぼく)は、〇〇をつくりました。 ・ 途中までできたので、次はもっとつくりたいです。 ・ じょうずにまわるように、どんぐりの大きさをかかんがえました。 	 <p>工夫したことを交流し、何度も考えたことに目を向けさせる。</p>

5 小学校

1年生 11月 生活科「松ぼっくりゴルフ」

活動の展開

秋の自然物を使って遊びを作る。
事前それぞれ自分の作りたい遊びを決めており、友達と相談しながら進めていく。
松ぼっくりをゴルフクラブの先に見立ててクラブ作りをしている。

クラブの構には木の枝・紙筒など思い思いの材料を選んでいる。松ぼっくりを構の部分とくっつけるのに、セロテープ・ガムテープ・毛糸などを利用する。形ができあがり、素振りをすると、その勢いで松ぼっくりが飛んでしまう。何度もテープを貼り直して見るが、松ぼっくり構の部分との間に隙間ができてしまっとうまくいかない。

A: 何回しても松ぼっくりが取れてしまう

B: どうしたらいいんやろ……



C: うまくできんなあ

D: 毛糸でぐるぐる巻いたらいいで!



松ぼっくりと棒をうまくくっつけることができない子ども達がそのことをDに伝え、「毛糸でぐるぐる巻いたらいい」と教えてくれた。Dは保育園の時の連携活動で、松ぼっくりに毛糸を巻き付けてくっつけるということを経験したとのことだった。これまでの経験を活かし、遊び作りに取り入れたり、その方法を友達と共有し活動をすすめる姿が見られた。

教員の関わり (ねらい、意図、環境)

- ・事前に自分の作りたいものを決めておくことで、イメージを持ちやすくする。
- ・友達同士で困った事や気付いた事を話し合う時間を設定する。
- ・失敗してもまた試行錯誤し挑戦する姿を見守る。
- ・材料を種類別に置いたり、製作に必要な場を用途ごとに作り、適度な空間をあげるよう環境を整える。

考察(育ち・学び)

- ・自分の考えを表現させるために試行錯誤しながら活動に取り組み、何度失敗してもあきらめることなく取り組み続けようとする姿は、【自立心】につながっている。
- ・木の枝や松ぼっくり、毛糸など、その素材の特徴に気づき、自分なりに考えたり工夫したりして、表現しようとしている。【豊かな感性と表現】

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、権限や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

5 小学校 1年生 算数

9 本時の目標

20までの数の構成に基づくたし算ができる。

10 本時の展開 (5/7)

過程 (分)	指導内容	学習過程	指導 形態	指導上の留意点 (個に応じた手立て・支援)	教材 教具	評価 (評価の観点) <評価方法>
導入 (10)	課題提示 ①	問題① めあてを確 かめる。	一斉	・何算をするのかを確かめる。	たま ごの 絵	・20までの数の構 成に基づくたし 算ができている。 (技) <発言・ノート>
	目当て：10よりおおきいかずのたしざんをしよう。					
展開 (30)	自力思考	問題を解く。	個別 ↓ 一斉	・10と4で14が10+4のこと であることに気付かせる。 ・数図ブロックで確認する。	鉛筆 の絵 数図 ブロ ック	十分満足できる と判断される状 況 ・10といくつの考 え方を用いた計 算方法を言ったり 書いたりして 説明している。 努力を要する状 況への手立て ・数図ブロックの 操作や動作を用 いる。操作や動作 を式と対応させ る。
	課題提示 ②	問題② 練習をする。	個別	・数図ブロックを使わせ、10 といくつを使っていなくても、 自力で答えを出させる。 ・どのようにして答えを出した かを交流し、簡単にできた児童 の出し方の意味を考えさせる。 ・10といくつを使った計算方法 の操作をさせ全体で確認する。		
	自力思考	問題③ 問題を解く。	個別			
	相互思考	交流	ペア ↓ 一斉			
【まとめ】10はとりあえずよけてけいさんする。						
ま と め (5)	自力解決	問題④ 問題を解く。 問題⑤	個別 ↓ 一斉	・プリントに問題が書いてある ものを渡す。 ・3+10になっても、10といく つの考え方でできることを確 認する。 ・数図ブロックで示す。		
	振り返り	振り返りを 書く。	個別	・計算方法について振り返らせ る。		

5 小学校

1年生 9月 「10より大きい数の足し算」

授業（活動）の展開

10より大きい数の足し算をするため、10と4が10+4のことであることを、算数ブロック等を用いながら確認する。

次に、12+4の計算をするために、算数ブロックを使い、子ども達がそれぞれに計算の方法を考える。

「12に4を足す」

「10をよけて2+4をする」

など、12+4の計算の仕方を自分なりに考える姿が見られた。

隣りの席の友達と、自分が考えた計算の仕方を伝え合ったり、自分の考えたことを、前に出て皆にわかるように説明したりする姿が見られた。



12+4は
どうやって計算する？

全部足したら16になる。
12に4足したら16になる。

他の考え方の人
いますか？

まず、10をよけて、
先に2+4をして10を足す。

教員の関わり

(ねらい、意図、環境)

・10と10より大きい数を使わずとも答えが出せるよう、算数ブロックを使うよう促す。

・どのようにして答えを出したのかを交流し、他の児童の出し方の意味を考えられるようにする。

・10と(2+4)という考え方を、ブロック操作と合わせて、数を実感できるようにしながら計算できるようにする。

考察(育ち・学び)

- ・10より大きい数の仕組みがわかり、繰り上がりのある計算に活かすことができる。数字を数図ブロックという半具体物によって量感を捉える力がついている。
- ・算数ブロックを操作しながら、「たす」という行為を理解し、10のまとまり以上の部分(2+4)の処理について、新たに工夫して考えている。
- ・自分の考えを整理して人に伝える、自分の考えたことを自分なりの言葉を使って表そうとする力が育っている。

【思考力】【数量・図形・文字等への関心・感覚】【言葉による伝え合い】

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

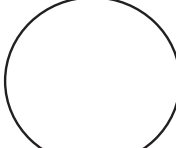
豊かな感性
と表現

5 小学校

		<p>になったから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなが自分のペースに合わせて歩こうと言ってくれたから。 ・ みんなが自分のためにゆっくり歩いてくれたから。 ・ 歩くことが楽しくなってきたから。 ・ 信二だけじゃなくて、みんなが自分のことを助けてくれたから。 <p>○ ゴールで青空を見たみんなの心に広がっていったものは何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やさしい気持ち ・ うれしい気持ち ・ 思いやり ・ 助け合う心 ・ みんなでゴールした喜び 	<p>「みんなが合わしてくれたら、どうしてうれしいのかな。」</p>	<p>よきに気付いている。 (発言・ワークシート)</p>
終末	4 本時を振り返る。	○ 今日の学習で思ったことや考えたことを書きましよう。		ワークシート

9 板書計画

挿絵



えがおの太一

「リュック、ぼくが持つてあげるよ。」

やさしい気持ち
うれしい気持ち
「やったあ」という気持ち
すっきりした気持ち
みんなでゴールしたよろこび
楽しかったという気持ち

- ・ リュックを持つてくれてうれしい。
- ・ みんながゆっくり歩いてくれた。
- ・ みんなで歩くのが楽しい。
- ・ みんなやさしい。
- ・ みんなといっしょに歩ける。
- ・ みんながはげましてくれる。
- ・ もうすぐゴール。
- ・ みんなでゴールできる。

目の前は青空

「おおい、太一くん。早く早く！」

- ・ 早く歩いてほしい
- ・ もっと頑張ってほしい
- ・ 列をあけないでほしいな

挿絵

がんばる太一
やさしい太一

挿絵

5 小学校

3年生 9月 道徳 「友達と助け合って(友情・信頼)」

遊び(活動)の展開

教師の範読の後、挿絵等をもとに、お話の流れを確認する。

信二の太一に対する気持ちの変化をペアで話し合い、自分の意見を言ったり、友達の話を聞く姿が見られる。

授業の振り返りでは、今日の学習で思ったことや考えたことを、一人一人ワークシートに書きこむ。

なぜ太一君は笑顔になったのでしょうか。隣のひとと話し合ってごらん。

荷物をもってもらったからかなあ。

あ、それあるかも。

みんなが自分を責めずにゆくり歩いてくれたことがうれしかったんじゃないかな。

今日の勉強をふりかえりましょう。

～ワークシートの記述より～

一人で見える青空と、みんなで見える青空は違うと思います。わけは、...

～ワークシートの記述より～

〇〇さんの意見を聞いてほくは...

教員の関わり

(ねらい、意図、環境)

・考える場面では、ペアトークを頻繁に取り入れられている。お互いに自分の考えを言い合ったり聞き合ったりすることで、自分の考えがはつきりしてきたり、友達の考えから新たな視点に気付いたりすることをねらっている。

・聞き合う、学び合う学習の時は、机をコの字型にし、お互いの顔がよく見えるようにしている。

・授業の最後は、一人で振り返らせている。新たな気づき、友達の考えから学んだこと等を自分の言葉で書くことで、学びを自分で実感することができる。

考察(育ち・学び)

- ・友達とのペアトークを通して新たな自分の考えに深化させる力や、人の話を聞き受け止め、考える【思考力】が育っている。
- ・自分の気持ちを調整しながら友達と折り合いをつけたり、周囲との関わりを深める力が育っている。【言葉による伝え合い】
- ・お話の主人公の視点に立ち、その気持ちを考える中で、友達のことを理解したり、助け合ったりすることの大切さやよさに気付いている。【道徳性・規範意識】

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、語彙や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

5 小学校 3年生 理科

9 本時の目標

- 回路の一部にいろいろなものを入れた結果を比較して考察し、自分の考えを表現している。

(科学的な思考・表現)

10 本時の展開 (5/7)

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材 教具	評価 (評価の観点) 〈評価の方法〉
導入	1 目当ての把握	○実験のめあてを確認する。	一斉	○器具や材料を見せ、実験をイメージしやすくする。	実験器具	
	電気が通る物の共通点を見つけよう。					
展開	2 実験	○身の回りの物や集めた材料を使って、電気が通るかどうかを調べる。	グループ	○導線をコンセントの穴に入れない等の安全確認を行う。	電池 電池ボックス ソケット 豆電球 導線	○回路の一部にいろいろなものを入れた結果を比較して考察し、自分の考えを表現している。 (科学的な思考・表現) 〈発表・ノート〉
	3 結果の整理	○電気が通る物と通らない物を分類する。	一斉	○板書だけでなく、実物を使って、視覚的に分かりやすく分類していく。	ノート ワークシート	十分に満足できる状況
	4 結果の考察	○電気が通る物の共通点を見つける。	個別 グループ	○見た目だけでなく、材質に着目するよう促す。 ○金属という言葉を確認する。	ノート ワークシート	○物の材質に着目して、電気を通す物についての考えを表現することができる。
	5 結論	○本時の学習をまとめる	一斉	○物には電気を通す物と通さない物があることを確認する。		努力を要する状況への手立て
まとめ	6 振り返り	○本時の振り返りを書く。	一斉	○実験を通して出来るようになったこと、新しく分かったことなどを書かせる。		○電気を通す物がどんなものであったかをもう一度確認させる。

5 小学校

3年生 11月 理科「電気で明かりをつけよう」

活動の展開

「電気が通る物の共通点を見つけよう」という本時のめあてを確認した後、教師が提示した実験の材料(アルミ缶、針金、紙、スプーン(金属・プラスチック)、アルミホイル、10円玉、布)を電気が通る物と通らない物に分けて予想していく。

その後、実際に実験をし、電気が通る物と通らない物に分類をして実験と実験結果の整理をしていく。

電気が通る物の共通点を見つけ、なぜ電気が通るのかということ、グループ内で交流する。子ども同士が自分の考えを伝え合ったり、友達の見聞の中で、疑問に感じていることを解決しようとすする姿が見られる。



同じ班の友達は回路が作れたかな。確かめてみよう。

わたしはアルミ缶は電気が通らなかったけど…なんでかな？

ぼくはアルミ缶に電気が通ったよ！

どうしたらアルミ缶に電気が通るのかなあ。

導線をアルミ缶のどこにつけるかで、電気が通す時と通さない時があるみたいだよ！

1つの輪になるようにつなぐと豆電球がついたよ。

前の学習を思い出して回路を作ろう。

針金は電気を通すけどプラスチックは通らないよ。

予想した通り電気が通らないよ。

ほとんど予想した通りの結果になっているよ。

自分の予想と比べながら実験していこう。

教員の関わり

(ねらい、意図、環境)
 ・電気の性質の学習の始まりとして、実験を通して調べること、またその結果から考察し、共通点や採点を見つけたら、結果を表や図で整理・分類したりする力を養う。

・「電気を通す物の共通点を見つけて」実験においては、各自調べたい物を持参すると、調べ物に違いが出るため、教師の提示した物を使って実験をし、めあてに沿って実験後の話し合いができるようにする。

・実験道具(物)を一緒に使うためグループで実験をするが、一人一人が実験をする中で、実験結果を自分の目で確かめられるようにする。

考察(育ち・学び)

- ・あえて答えを言わず実験方法を考えさせることで「なぜ?」「どうして?」「どうすればよいのか考えていることや、予想したことに対する結果のつながりを考えていることより、【思考力】が育っている。
- ・実験を通して身の回りにあるものの性質について知る機会となる。【社会生活との関わり】
- ・どの材料も自分で調べて確かめたいという気持ちがあり、3年生から実験方法を考える等積み上げをしておくことで主体的に学ぶ力が育つ。

育ってほしい10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識	思考力	社会生活との関わり	自然との関わり 生命尊重	数値や図形、標識や文字 などへの関心・意識	言葉による 伝え合い	豊かな感性 と表現
------------	--------	-----	-----	----------	-----	-----------	-----------------	--------------------------	---------------	--------------

5 小学校 4年生 総合的な学習の時間

11 本時の目標

- 防災マップを作成するために、地域、保護者の方々と防災について話合う。

12 本時の展開 (42/77)

学習過程	学習内容	指導上の留意点	評価 (評価の観点) (評価の方法)
内省	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの活動を振り返り、本時の活動を確認する。 ○ めあてを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域、保護者の方々と防災意識を共有してよりよい話合いができるようにする。 ○ 本時のめあてをグループ毎に発表して活動の見通しを持つ。 	
表現 追究	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ毎に調べたこと、マップに載せる内容について報告する。 <ul style="list-style-type: none"> ・マップグループ① ・マップグループ② ・情報グループ ・避難の仕方グループ ・避難の準備グループ ○ 防災マップを作成するために中舞鶴の危険箇所や避難の仕方、避難の準備のことなどについて地域の方と意見交流をする。 ○ 各グループで話合ったことを報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分達で考えた表現方法を使って堂々と発表させる。 ○ マップを作成するにあたって、疑問点や改善点について地域の方々と話し合う。 ○ 地域の方々からの意見に対して自分たちの考えを積極的に伝えるように留意する。 ○ 地域の方々の思いを受け、今後どのように活動を展開していくのか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達や地域とのつながりの中で自分の居場所を実感し、意欲的に活動することができる。 (仲間への信頼) (行動観察・OPPAシート)
内省	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の活動について確認して次の学習活動につなげる。 ○ OPPAシートに振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域社会とつながりながら活動を進めていくことを確認する。 ○ 地域の方々への思いや今後の活動への意欲を振り返りに記入する。 	

5 小学校

4年 11月 総合的な学習の時間「困っている人を助けよう」

活動の展開

地域の防災マップを作成するために、マップグループ、情報グループ、避難の仕方グループ、避難の準備な場所やそれぞれに分かれ、地域の危険な場所や避難の準備などについて地域の方と意見交流をする。

情報グループでは、「むずかしいな～」と悩みながらも、友達の見聞に耳を傾けたり、地域の方にわからないことをたずねながら、積極的に自分の意見を伝えようとする姿が見られた。

地域の方の見聞を参考にしながら、自分達なりに効果的な情報の知らせ方や避難の方法を考えていた。

でも...
避難所に連れて行くのはわかるけど、100%安全とは言えん。

無理やり連れて行っても意味ないし、お年寄りの気持ちも考えんとあかん。

見 童：青色
地域の方：緑色

避難する時は一人で逃げるんか？



避難する時にどう避難するかをみんなまで相談しておくことが大事。それをどう伝えていくかをマップの中に書いておくよいな。

避難する時に呼ぶに行く？

一人暮らしのお年寄りとか、妊婦さんとか？

障害のある人とか？

どうやって避難所に連れていくかも考えるといいな。

歩いて行ったら土砂に流される！

だから雨が降る前に避難するんや！

老人は子どもの歩く速さについて行けん。

お年寄りとか妊婦さんとか速く歩けんやん。

だから早めに避難するんや。

朝のうちに準備しとかなあかんや。

保育者・教員の関わり (ねらい、意図、環境)

・防災マップを作成するにあたって、疑問点や改善点をグループ内の友達や地域の方との話し合う機会を持つ。

・地域の方の見聞に対して自分達の考えを積極的に伝えられるよう促したり、言葉がけをした。

・地域の方の思いを受け、今後どのように活動を展開していくかを考える機会を持つ。

・事前に地域の方との交流などの地域を知る取り組みをする。

・写真を何枚か用意しておく。

考察(育ち・学び)

- ・地域の方との関わりや友達と話し合うことで【言葉による伝え合い】が育っている。
- ・自分以外の人(お年寄り、妊婦、障害のある人等)のことを知っており、その人達への配慮や助ける方法を考えている。【道徳性・規範意識】【社会生活との関わり】
- ・防災マップを作成することにより、自然現象のプラス面とマイナス面を知る機会となる。【自然との関わり 生命尊重】

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

知識や図形、標識や文字
などへの関心・意識

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

5 小学校 5年生 体育

本時の展開 (6/7)

過程	指導内容	主な学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・ 教具等	評価 (評価の観点) <評価方法>
導入	○場の準備 ○ウォーミングアップ ○慣れの運動 ○めあての確認	○場の準備をする。 ○跳び箱運動に関連する体ほぐしの運動をする。 ○慣れの運動を行う。 ○課題を達成するための自分のめあてを持つ。	一斉 一斉 一斉 一斉	○安全に留意して準備させる。 ○ウォーミングアップの動きや慣れの運動が、技にどのように活かされるのか意識させる。[T2] ○着地で静止することを意識させることで、無理な演技を防ぐ。 ○シンキングツールを使って出来栄をよくなるためのポイントを確認する。[T1]	ロイター板 跳び箱 マット ワークシート DVD	
出来栄をよくなるための練習をしよう。						
展開	○開脚跳び	○意識するポイントを確認するために一度跳んでみる。 ○それぞれの課題に応じた練習に取り組む。 ・両足踏み切りを意識する場 ・手を着く位置と腕の支持を意識する場 ・着地を意識する場 ・発展技に挑戦する場 ・各跳び箱で意識するポイントを決め、見合う。	個別 個別	○自分のめあてが一人一人持てるように意識させる。 ○これまで動きのポイントをため込んだシンキングツールや仲間の助言から自分が気を付けるポイントを選ばせる。 ○相互評価を行わせ、「できた」「もう少し」に加え、可能であればアドバイスもさせる。 ○特に意識させたい感覚については、易しい場の設定を行い、感覚を養わせる。 ○発展技に挑戦させる時は、着地に重点を置き、より安全面を意識させる。 ○T2は、発展技の模範・指導だけでなく、支援が必要な児童への指導も行う。[T2]	ワークシート	○出来栄をよくなるための課題を知り、それを解決するための活動を選択している。 (思考・判断) <行動・ワークシート> 十分満足できると判断される状況 ○自分の能力を的確に把握し、課題に最適の練習をしている。 努力を要する状況への手立て
まとめ	○振り返り ○後片付け	○今日の学習について振り返る。	個別 一斉 一斉	○自分の動きがどのように変化したのかや、頑張ったこと等を考えさせる。 ○全体交流の場で発表させる。[T1]	ワークシート	○課題を明確にさせ、それを解決するための練習を選択肢を絞って選ばせる。

5 小学校

5年生 10月 体育「跳び箱運動」

活動の展開

自分の課題を知り、基礎的な学習や友達からのアドバイスをなどを受けて、自分なりに解決する方法を見つけ工夫をしている。跳び箱は6コース、各自の課題に合わせてコースを選んでいく。友達同士で互いにアドバイスし合っている。

跳ぶための技のポイントを意識して跳んでいる。また、友達の良いところを出し合う場面でも、ポイントを意識した発言をしている。

振り返りの場面では、小グループで自分の頑張ったところ、学んだことを報告していた。

教員の関わり
(ねらい、意図、環境)

- ・個々では、自分で考えさせるツールを用いて、自分なりの課題解決に向けて、取り組めるようにしている。
- ・個々の気付きは集団の中で共有するように、全体での話し合い、小集団での話し合いを取り入れている。
- ・アドバイスし合うこと、会話することで対話的な深い学びへとつながっている。

B: 着地の時つま先から着いたら勢いが強くて、かかとを着いた方がよかった。

C: 跳び箱の前に手をつけて…

自分の目当てを立てよう。

A: 最後までべるようになった。

D: ロイター板を強く跳んで、跳び箱の奥に手をつけて、空中の時、前に強く押したら跳べるよ。

個々の見つけた技のポイントを
学級全体で共有したシンキングツール

考察(育ち・学び)

- ・開脚跳びの出来栄をよくするために、技のポイントを可視化したシンキングツールをもとに自分に必要な練習を考えたり、友達とジャッジし合ったりすることで、技の出来栄えについて具体的に言葉で伝え合う力が育ちつつある。【健康な心と体】【言葉による伝え合い】【道徳性・規範意識】【思考力】
- ・課題が明確で自分の成長が他者ともに評価される中で、どの子も意欲的に課題に取り組むことができている。【自立心】

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

5 小学校

1年生 11月 国語 「くじらぐもに とびのろう」

活動の様子

授業の前半は、範読、音読を通して場面の様子を読み取った。その後、子ども達の音読の仕方を考えた。

初めは、丸くなくていただけだったが、「手をこうやって…」という意見が出てから、音読への向き合い方が変わっていった。どんどん大きな声で読もうとしていた。

教師の「どんな風にした？」の発問によって、読み方を考え直し、もう1度することで、さらに良い方を工夫するようになっていった。

どんな風に読むか、考えます。



手をこうやって1, 2, 3ってやったらいいやん。(手をゆらす)

天までどけ、一、二、三。

もったかたか、もったかたか。

どんな風にした？

腕もふってたね。もう1度やってみる？

声を大きくしていった。

3回目は、ばーって言った。

空に行くから大きい声で言った。

さいごは、みんなが声を大きく出した。

教員の関わり (ねらい、意図、環境)

・同じ音読の仕方ではよいのかを考えるために、「とんだのは、やっど三十センチくらいです。」「こんどは、五十センチくらいとべました。」という表現を手掛かりにして、音読の仕方を考えさせる。

・本文の言葉から、様子を読み取むことが出来るように授業を進める。

・話を楽しみながら読めるように、手をつないで輪になり、声を出すように提案する。

考察(育ち・学び)

・文章を読み取り、実際に声に出したり、体を動かして表現したり、考えたことを友達同士で表現したりすることから【豊かな感性と表現】が育っている。
・お話しに親しみながら考えたことなどを言葉で伝え合っている姿から【言葉による伝え合い】が育っている。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数値や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

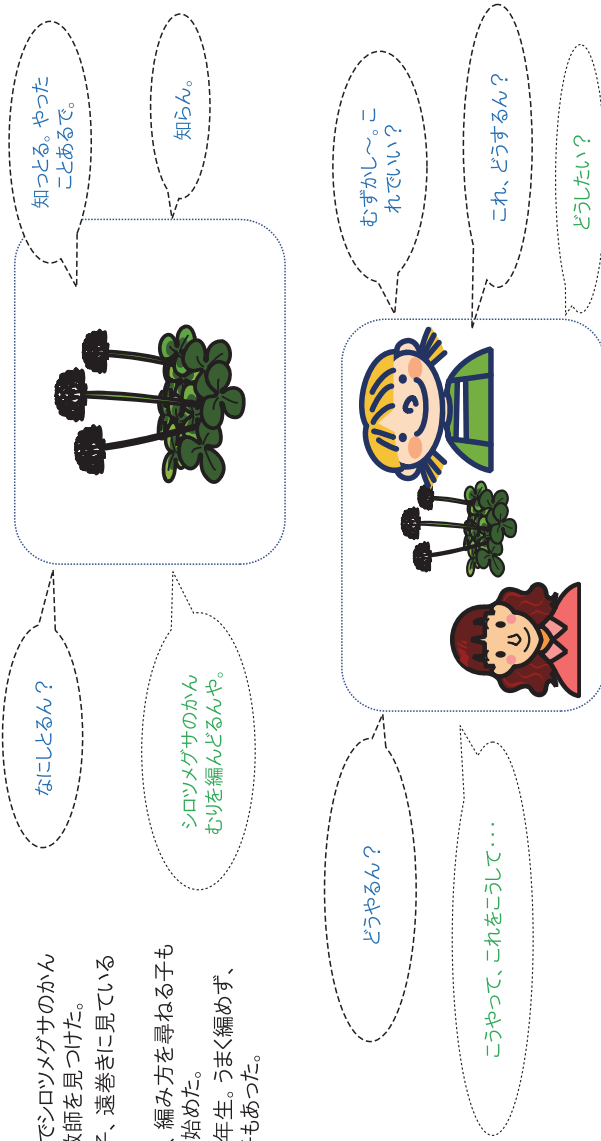
豊かな感性
と表現

5 小学校

全校児童対象 5月 「 シロツメグサであそぼう 」

遊び(活動)の展開

- ・休み時間に前庭でシロツメグサのかんむりを編んでいる教師を見つけた。
- ・近くに寄ってくる子、遠巻きに見ている子などさまざま。
- ・近くに寄ってきて、編み方を尋ねる子どもあり、教えると編み始めた。
- ・寄ってきたのは1年生。うまく編めず、すぐにあきらめる子どももあった。



保育者・教員の関わり (ねらい、意図、環境)

- ・学校の前庭にシロツメグサが群生していたが、子ども達は関心を示さない。身近な自然に気づき、親しんでほしいと願った。
- ・休み時間に教師が前庭でシロツメグサのかんむりを編む姿を見せ、関心を示す子どもから輪を広げていこうと考えた。
- ・教師が作ったかんむりは、水を張った皿に乗せ、子どもたちがよく通る昇降口のホールのに置いた。このことにより、『何だろ?』『きれいだな!』と関心を持たせ、活動へ誘おうと考えた。

考察(育ち・学び)

- ・かんむり作りをきっかけとし、身近な自然への興味や関心を深めている。
- ・シロツメグサからかんむりができることに感懐し興味を持つことで、どうやって作るのだろうと興味を持って、自分でも作ってみたいという意欲につながっている。【自然との関わり・生命尊重】

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、算数や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

6 まいづるカリキュラム 中学校

ここでは、中学校の指導案と事例を紹介します。

- **1年生 数学**
- **2年生 英語**

□中学校の教員の皆さんは、それぞれ実践される際に参考にしてください。

□保育所・幼稚園・認定こども園の保育者の皆さん、小学校の教員の皆さんは、中学校教育への理解を深めるために活用してください。

6 中学校 1年生 数学

9 本時の目標

具体的な事象から取り出した二つの数量の関係を関数としてとらえ、グラフを活用しながら論理的に考察し表現することで、考えを深めたりすることができる。(見方・考え方)

10 本時の展開 (20/20)

指導過程	指導内容	主な学習活動	指導形態	指導上の留意点 ○手立て ○考えさせたい内容	教材 教具等	評価 (評価観点) (評価方法)
導入	課題①(別紙)提示 (共有の課題) 目標提示	○課題①(別紙参照)を知る。	個人	○場面設定が理解しやすいよう、課題を掲示物で提示する。 ○洗濯機A, Bにかかる金額は使用期間によって変化することに気付かせる。	掲示物	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> グラフが表す意味を考え、説明することができる。 </div>					
展開	考察①	○広告①を利用して、洗濯機Bを宣伝する。	グループ	○x軸、y軸が何を表しているのか、2つのグラフはどちらがA, Bなのか、このグラフを利用することで、なぜ洗濯機Bが売れるようになるのかを考えさせる。 ○机間指導の際に、疑問や気付きをつなぎ、グループに戻すことで、考えを深めさせる。	ワークシート	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 十分満足できると判断される状況 </div> ・グラフを活用しながら論理的に考察し表現し、考えを深めたりすることができる。 (見方・考え方) (観察 ワークシート)
	課題②(別紙)提示 (JUMPの課題)	○課題①と課題②の違いについて考える。	一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 生徒に考えさせたい内容 </div> ＊比例のグラフになっていないこと ＊2直線の交点が表すこと		
	考察②	○グラフ①とグラフ②の違いについてグループで考察し、広告②を利用して洗濯機Bを宣伝する。	グループ	＊広告として、なぜ②のグラフが適しているのか ○机間指導の際に、疑問や気付きをつなぎ、グループに戻すことで、考えを深めさせる。		
	課題③(別紙)提示 (JUMPの課題)	課題③に取り組む。	一斉			
	考察③	○洗濯機A, Bに対して、グラフが1つになっていることについて考察する。	グループ	○グラフの傾き(比例定数)を比較させる。 ○なぜグラフの向きが右下がりになっているのか考えさせる。		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 努力を要する状況への手立て </div> ・グループ内の発言を教室全体へつなぎ、理解の手助けとする。
まとめ	振り返り	○本時で学んだことをグループで話し合う。	グループ 一斉	○ペアで話した後、何人か指名し、全体で共有する。		

6 中学校

中学1年生 11月 数学「比例と反比例」

授業(活動)の展開

比例のグラフを活用して、家電の宣伝広告を作成するという課題を4つのグループに分かれて話し合う。

AとBの洗濯機を比較して

A:縦型洗濯機 85,000円

B:ドラム式洗濯機 133,000円

(条件)

A:縦型洗濯機 Bより48,000円安い

B:ドラム式洗濯機 光熱費はAより

1ヶ月で500円安い

B:を売り出すためにどのグラフで宣伝広告

すると効果的か?

男子1、女子2のグループでは...

自分の考えを出し合いながら、話し

合っている。

合計が500円ずつ差がつくグラフにしたら

1年で(計算しなから)1年で12ヶ月×500円×8年=48000円?

8年たつたら、どれくらい差が出る?

なんでグラフが二つあるん?

洗濯機が二つあるから?

どっかがA?B?

上に行くほど高い?

どっかで交わるとあかんのちゃう?

光熱費グラフやから...

教員の関わり

(ねらい、意図、環境)

・2つの洗濯機を用いて、その特徴から見える2つの数量関係を比例や反比例の具体的事象として捉え、数学的な見方や考え方を身に付けさせる。

・既習した比例や反比例の基礎的知識を活用しながら、グラフを通して生徒同士が事象を論理的に考え、表現する話し合いの過程を通して問題解決を図る。

・「なぜ?」との生徒への問いかけ、生徒の発言のつなぎや戻しを通して、その疑問に対して説明や表現を引き出すことで生徒同士の学びを深める。

・ヒントの提示や説明は最小限にしつつ、グループの学習状況に応じて支援を行い、グループ内の考え方を大切に促す。

考察(育ち・学び)

・表やグラフなどを通して、様々な具体的事象の特徴を比例や反比例として捉えられ、活用や判断、問題解決する力が身に付いてきた。

・比例に関連した基礎的知識を用いて、事象を論理的に考察、表現することが身に付いてきた。【思考力】【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

・生徒同士によるグループ内での話し合いや学び合いを通して、学習意欲が高まり、学力の定着が徐々に図られるようになった。【言葉による伝え合い】【協同性】

育ってほしい
10の姿

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

6 中学校

中学2年生 9月 英語 「日本の名所を紹介しよう」

授業(活動)の展開

・There is /There areなど、これまでに学んだ内容を使い、外国人観光客に日本の名所を紹介する文をグループで話し合っている。
 北海道を紹介するグループでは、自分の知っている北海道の知識を友達に伝えたり、北海道の特色を社会科の資料などを用いて調べたりする等、紹介したい内容や、どのように伝えれば、外国人観光客にわかりやすいか等を工夫しながら、話し合いを進めていた。

英文を作る際には、これまでに学習した内容を活用したり、わからない単語や文法等を、辞書で調べたりしながら、相手に伝わるよう考えて文を作ろうとする姿が見られた。



『自然が豊か』
って書く？

『自然が豊かやで
○○です』って書
いたらいいやん。
There is かな？

まず質問？
Do you know

北海道を知って
いますか？

『知っている』はシンク
じゃなくて、ノウヤ！

まず大ききやで！！
(画用紙に)北海道
書いてもらいいんちゃやう？

『Big』って
書いてみた！！

(画用紙の)地図にこの辺
が動物園ですって書いてら
いいんちゃやう？

There is～

ビッグスノウ
ちやうん？

雪がたくさん降りまっ
つて何て言うんやろ？



教員の関わり (ねらい、意図、環境)

- ・モデル文を提示し、これからどんな活動を行うのかのイメージを持てるようにする。
- ・紹介文を考える材料として、写真等の資料を用意し、生徒の意見を引き出すようにする。
- ・各自が意見を言い合えるよう、ワークシート等の工夫をする。
- ・グループ内で、何をその観光地の売りにするか、それぞれが意見を出せるようにする。

考察(育ち・学び)

- ・北海道について知っている知識を活かし、英語にして伝えるという力や、他教科の情報や辞書などのツールを使いこなす力がついている。
- ・仲間と共に一つの目的に向かって取り組む態度が育まれており、より良いものを作ろうとして自分なりの考えや知識を伝える力がついている。
- ・名所の紹介をすることで、自分の国の良さを知ったり、理解を深めたりしている。【協同性】【社会生活との関わり】【言葉による伝え合い】

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、語彙や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現